

調査項目 ④「公園緑地の維持管理や緑の市民協働により発生した剪定枝等の発生材等の有効活用」に関する調査研究

調査年次 平成30年度（10次調査）

目的

本調査は発生材の活用についての各都市の事例や、民間企業等における剪定枝等有効活用事例の収集、緑の市民協働で発生している発生材等の取扱い及び活用事例を収集し、有効活用するための課題を整理することを目的に実施する。また、発生材等を有価物として活用する方法、利益を生み出し還元する手法等、その考え方やスキームを検討し、維持管理費の低減や緑の市民協働事業に反映することを目的とする。

概要

以下の内容について調査を行った。

- ①発生材の扱いと活用の現状把握
- ②発生材の積極的活用に向けた方策の現状把握
- ③発生材の有効活用に向けた検討
- ④発生材の活用に関する課題と展開方向の検討

結果

- ①公園緑地の維持管理で発生する発生材について、有効に活用している事例のほか、利益に結びつけている事例について収集した。
- ②他都市での展開可能性に向けて、その背景や概要、課題について整理した。
- ③発生材等の有効活用に向けては、民法や地方自治法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律などの法令等の関係が問題になるため、これらを踏まえながら、処理費用の削減だけでなく、より有効に活用するための可能性について検討した。
- ④発生材等の有効活用事例と障害となる課題とを総合的に整理し、有効活用の可能性を判断し、その結果に応じて取りまとめた。

まとめ

発生材の有効活用については、安定した量の確保や適切な保管場所の必要性、処理や加工場所への運搬に掛かる手間と費用が課題となっている。また、発生材等の所有者は自治体であることから、市民等による活用、販売を自由に行うには、条例や覚書など自治体と活用者の間に何らかの取り決めが必要になることがわかった。

調査結果の反映等

キーワード

一般廃棄物、産業廃棄物、バイオマスエネルギー、木質ペレット、

事例公園等

万博記念公園、DINS 堺、横浜動物の森公園緑のリサイクルプラント